

## 部門賞 受賞者の紹介



### 環境工学部門功績賞を 受賞して

小野田 弘士  
早稲田大学  
環境・エネルギー研究科

このたびは、環境工学部門功績賞を受賞させていただき、関係の皆様へ感謝申し上げます。とくに、この間、ご指導いただきました第2技術委員会の皆様には大変お世話になりました。2010年度に部門長を拝命しまして、同年の環境工学総合シンポジウムは再生可能エネルギー国際会議と併設で実施しました。また、技

術委員会における講習会の企画等をお手伝いさせていただきました。また、本年度は、部門として2回目となる環境工学国際ワークショップ2014の実行委員長を務めさせていただき、無事に終えることができました。

私が軸足を置いている廃棄物・資源循環技術やエネルギー分野においては社会的なニーズは益々高まっていると日々感じています。こうした情勢のなかで学会として果たすべき役割について、再考すべき時期に差しかかっているのも事実です。私自身も研究者としての原点に立ち返り、充実した研究・論文発表を積極的に行っていきたいと思っております。また、部門の運営等で得られた経験・ノウハウは今後の活動に還元できればと考えています。



### 環境工学部門研究業績賞を 受賞して

雉本 信哉  
九州大学大学院工学研究院  
機械工学部門

このたび、環境工学部門研究業績賞を受賞することができましたことは本部門の諸先生、諸先輩のご指導と研究室の卒業生、学生諸君の熱意および多大なご協力の結果であると心より感謝しております。

今回の研究業績賞の対象となりましたのは、「三次元空間内での能動音響制御に対して、制御中に制御点(評価点)を制御対象者に追従させる手法」に関する

一連のものです。能動音響制御は騒音に対して逆位相の制御音を干渉させることで騒音低減をはかるものですが、制御領域が狭いことが一つの問題点となっています。

このことに対して、制御中に制御領域を人間の動きに追従させることができれば、結果的に制御領域の拡大と同等の効果を与えられるという想定のもと、研究を進めてきました。

高速な適応アルゴリズムによる移動中の制御性能の向上や制御点位置を検出し最適な制御系の特性を算出する手法といった成果を環境工学総合シンポジウムなどで継続的に発表して参りました。

今後とも能動音響制御の実用化を目指して研究を進める所存です。本当にありがとうございます。



### 環境工学部門研究業績賞を 受賞して

江原 由泰  
東京都市大学

この度は、2014年度 環境工学部門研究業績賞を頂くという栄誉に拝し、大変光栄に存じます。今までご支援ご鞭撻を頂いた方々並びに関係者各位に心より御礼申し上げます。受賞対象は、大気汚染物質の除去に対する放電プラズマの応用技術に関する研究です。

特に、電気集塵装置に関しては、20年以上にわたり基礎的な粒子の挙動から実機への搭載まで、研究開発に携わってきました。道路トンネル内に設置される

電気集塵装置をはじめ、最近では船舶から排出される粒子状物質の浄化を研究ターゲットにしております。

電気集塵の技術は古くからあり、ある程度は確立されております。しかしながら、以前より解明できない課題もあり、新たな粒子の捕集や従来とは異なる設置環境に適応可能な集塵システムの構築などが望まれることもあります。これらの課題に対しては、最新の測定技術やシミュレーション解析などから貴重な知見を抽出し、新しい電気集塵技術を提案することにより解決できつつあります。

環境保全技術は機械や電気、化学などの各分野で研究・開発された技術の組み合わせで、成り立つことと考えております。したがって、今後はさらに広い視野を持ち、本受賞を励みにして研鑽を積み、次世代電気集塵装置の研究に取り組みたいと考えております。